the People

元気なまちには　元気な主張を続け
元気に行動する　市民がいる

the people（ザ･ピープル）
2012年　3月発行

発　行：特定非営利活動法人 ザ・ピープル
代表者：吉田　恵美子
所在地：福島県いわき市小名浜字本町11－1
まちづくりステーション小名浜内
ＴＥＬ／ＦＡＸ：**0246－52－2511**
E-mail：the-people@email.plala.or.jp
ＵＲＬ：http://www.iwaki-j.com/people/

東日本大震災後　私たちの1年

3月	11日	2：46頃　地震発生（M9.0）　震度　6弱 2：49　大津波警報発令 被害：死者　310名／不明者　37名／火災発生　11件 住宅被害　全壊7,640棟・半壊29,923棟
	16日	本会としての活動開始　津波被災者に回収した古着のうち防寒着と靴を届ける
	23日	自主的な避難所支援開始
4月	1日	れんげ国際ボランティア会の支援を受け【避難所母さんたちの元気プロジェクト自炊炊き出し補助】開始
	8日	いわき市内の生産者から野菜を買い取り避難所へ運び始める
	19日	㈳いわき市社会福祉協議会「いわき市災害救援ボランティアセンター」の地域支部として「小名浜地区災害ボランティアセンター」立ち上げ
5月	3～16日	救援おさがりバザー開催
	19日	女性避難者のいなくなった福島高専避難所へ調理スタッフ派遣開始（～7月2日）
6月	1日	赤い羽根共同募金会助成事業「避難所母さんたちの雇用再建プロジェクト」事業開始
	3日	タウンモールリスポにて「被災した思い出の品展示と引渡し」開催(～8月末日)
	19日	自炊炊きだし事業全面終了　これまでの期間に2万食を提供
7月	15・16日	JKSK主催東北と首都圏女性との交流・結々プロジェクト参加
	18日	「小名浜地区災害ボランティアセンター」機能変更・引越しに伴いボランティア受け入れ一時休止 小名浜地区のいわき市民向け公設避難所全て閉鎖
8月	8日	「いわき市小名浜地区復興支援ボランティアセンター」として再スタート
	17～19日	「被災者支援チャリティバザーと『衣』から始まる再生フェア」開催
	27日	小名浜地区内雇用促進住宅集会所における支援サロン事業開始
9月	3・4日	「フラガールズ甲子園 in AKIBA」いわき物産展内でリメイク品のチャリティ販売
10月	1・2日	「がんばっぺ！いわき復興祭」開催に伴いがんばっぺ！フリーマーケット運営
	27日	小名浜地区内被災地域自治会で支援物資配布会を包括支援センター・地区社会福祉協議会と共同開催
11月	1日	ふくしま連携復興センターに参画
	8日	小名浜地区民間アパート居住被災者に向けた交流サロン開催（以降定期開催）
	13日	タウンモールリスポ内に「小名浜地区交流サロン」開設（写真1）
12月	8日	「ぼくと私の海辺のクリスマス」開催（写真2）
	27日	いわきオーガニックコットンプロジェクト始動
	31日	中央台仮設住宅集会所にて年越しそばの振る舞い実施
1月	15日	「親子で簡単リメイクコンテスト」のリメイク素材ゲット!バスツアー実施
	17日	オーガニックコットンプロジェクト長野県小諸・上田視察バスツアー実施
	26日	オーガニックコットンプロジェクト記念講演会開催
	28日	泉地区仮設住宅入居者と地域住民とのお雑煮交流会開催（写真3）
2月	12日	いわきサンシャインマラソンいわきありがとうプロジェクトに参画
	26日	「レッツ体感!リサイクル　リメイク＆手づくりフェア」の中で「親子で簡単リメイクコンテスト」の作品発表＆授賞式を実施（写真4）
	29日	地球環境基金助成事業の進展と東日本大震災後の活動をまとめた報告書の作成
3月	7日	国際交流基金　地球市民賞　理事長特別賞受賞
	11日	小名浜地区追悼事業「世界が祈る　ふくしま・いわきのために　ふくしま・いわきで祈る　世界のために」主催

1

2

3

4

1年目の感謝を！

東日本大震災の発生以降、本会からいわき市の窮状をお伝えする「いわき震災通信」（これまでのバックナンバーは本会ホームページのトップ頁から御覧になれます）と名付けた情報発信に呼応する形で、全国各地の皆様からお寄せいただいた義援金は総額900万円にも上りました。

中には、心温まるメッセージを添えて年に何度も義援金をお送りくださった方もおられ、緊急時の様々な現場のニーズに合わせた救援物資の提供と共に、いわきの地で被災者支援活動に取り組む私たちにとって、物心両面での大きな支えとなってきました。1年目の今、改めて心よりのお礼を申し上げます。

ここ福島県いわき市には、津波･地震による被災と共に、1年を経過しても未だ収束を迎えることのできない福島第一原発事故が大きな爪跡を残しています。放射能汚染・内部被曝・風評被害・復興バブル・コミュニティの断絶…。復興の足音が響く中にあっても尚、ここに住む誰もが「被災」という現実の中に足止めされているようです。改めてここに住む多くの人々の心の安らぎのために、私たちが出来ることは何なのか？これからも自分自身に問い掛けながら進んでいこうと思っております。皆様の変わらぬお力添えを心よりお願い申し上げます。

つぶやき

出会い　③

大震災から丸一年。あっと言う間の一年であった。いわき市には現在2万人を超す方々が相双地区から避難されて来ている。原発事故の収束という先の見えない大きな課題を抱えながら、仮設住宅での生活は、どれほど不自由で不安で辛いことだろうか。▼私達に今出来ることは何だろうか。少しでも心地よく過ごしていただくためにはどうすることがいいのだろうか考える日々である。1月28日泉町玉露地区の富岡町仮設住宅の方々と地域の方達との「お雑煮交流会」を開催した。地域の区長会や婦人会、自治会の協力を受けながら開催出来たことは大きな意義があったと思う。▼お餅や野菜は全国からのネットワークによって提供された。ボランティアによる音楽の演奏もあって賑やかな楽しい交流会となった。会場の公民館の大広間では沢山のドラマが生まれた。野球チーム30名の元気な子供達の登場は希望を抱かせる明るい姿だった。お雑煮やお汁粉を頬張りながら「地震の時は如何でしたか」といった会話が自然に交わされていた。今後どれほどの期間となるか分からない現在、地域の方々との交流は大切であり、そのための取組は是非とも進めていきたいと思う。▼3・11は各地で多くの追悼の事業が持たれた。本会でも小名浜地区追悼事業を開催した。アボリジニの女性による祈りやチベット出身の歌手バイヤーヤンジンさんによる歌など多くの方々が応援に駆けつけて下さった。次の日は湯本二中の卒業記念コンサートに出席のため案内方々ご一緒した。体育館に集まった生徒120人は、歌の力強さにも驚いた様子だったが、ヤンジンさん自身、4000メートル級の高地、チベットで生まれ育った貧しい生活と今なお政治的な弾圧の中で生き抜いているチベットの人達の状況を語った。そうした人々がいることを忘れないでと語る彼女の話を瞬きもせず聞いていた生徒達。終了後、校長室で暫し談話。両親を亡くした女子生徒の事が話題となった。その子に是非会いたいと言う。間もなく現れた女の子は戸惑っていたが、色紙を贈り抱きかかえるように励ますヤンジンさん。別れ際には、女の子は「看護師になります」ときっぱり約束した。二人の姿は、私にとって忘れることの出来ない一幅の絵のように映った。出会いを通し人間は、人生を決定付ける事もあるかもしれないと思った。▼ところで先日、偶然にも広野小学校1年生の時の先生の消息が分り、62年ぶりに電話でお話をすることが出来た。95歳とは思えない元気なお声。目立つ子ではなかった私の事を覚えて下さっていた。5月の連休にはお会いしたいと早速手紙を認めた。人間の一生は出会いで始まる旅なのかもしれない。出会いの素晴らしさに感動!!とつぶやいた私である。

（K）